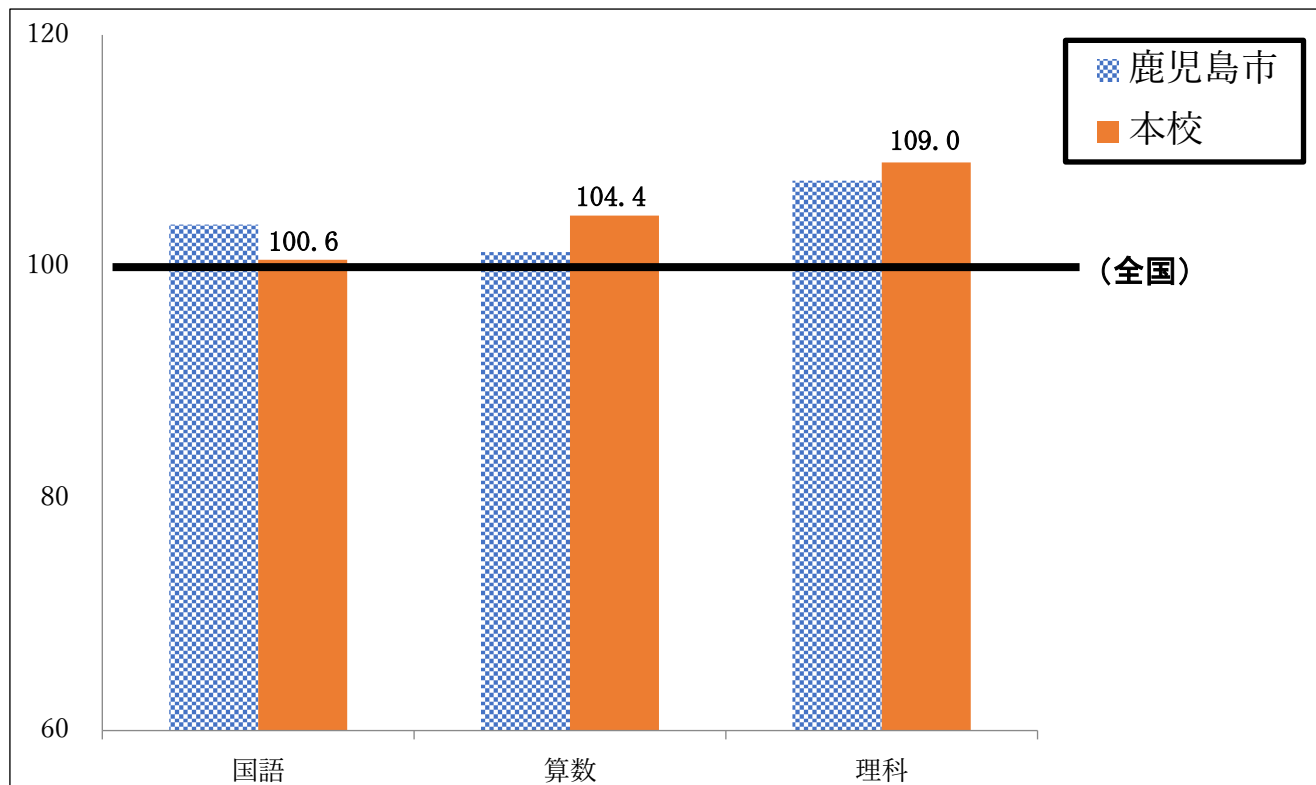


令和4年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和4年度の全国学力・学習状況調査が、6年生を対象に4月19日（火）に実施されました。

この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることと、学校における児童への教育（学習）指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として実施されています。本校の結果は次のとおりでした。

1 自校・市・全国の平均正答率の比較（全国平均正答率を100とする棒グラフ）



2 課題と改善策

(1) 国語科

全体的に「書くこと」に課題が見られます。特に、互いの立場や意図を明確にしながらか自分の考えを整理して文章にまとめることや、学び合いの際に、友達と文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章を再構築することに課題があります。

そこで、課題を解決するために授業では、自分の考えを整理して思考ツール（思考の流れを明確にした図）等にまとめ、説明する順序を考えながら、発言したり文章に書いたりさせる活動に、授業の中で意識して継続的に取り組ませます。また、学び合いの際は、自分の考えを明確にしてから、話し合いに取り組むことができるように自力解決の場を十分設けます。

(2) 算数科

伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、答えを求めることに課題が見られます。2つの数量の関係について、それらの関係に着目しながら、表や式を用いて表し、変化や対応の特徴を筋道を立てて考察する活動が、授業の中で不十分であると考えます。

そこで、授業では、対話的な活動を重視し、友達に自分の考えを筋道を立てて説明する時間を確保していきます。さらに、図形領域では、図形の性質を見いだし、それを活用して問題を解くことができるように、デジタルドリル等の良問に継続して取り組み、問題に慣れるようにします。

(3) 理科

日常生活の中での現象を科学的に考えたり説明したりすることに課題があります。

そこで、授業では、日常生活と関係の深い事柄を取り入れて展開したり、学習したことを身近な生活の場面に関連付けて考えたりするなどの指導の工夫に取り組んでいきます。また、観察などで得た結果を、自分なりに分析し、自分の考えを明確にもつことができないという課題がありますので、観察や実験の結果を基に結論を短くまとめて、発表用のホワイトボードやロイノート等に図や文章でまとめ、具体物を提示しながら発表する活動を取り入れていきます。

(4) 全体的に

概ね全国や県及び市の平均正答率を上回る結果ではありましたが、発展的な学習に取り組ませ、理解を深める必要があります。また、自己肯定感や自己有用感が低いことが、「児童質問紙」の結果からも明らかになっているため、学習形態を工夫しながら、グループ学習やペア学習をさせる中で、自分の考えを相手に伝え、互いに認め合う経験を重ね表現することへの自信をもたせるとともに、自己肯定感を高めるように努めます。